

I 戦略プロジェクトについて

1 戦略プロジェクトとは何か

平成27年度からスタートした総合計画の基本目標*¹を達成するため、各分野の29施策*²において、それぞれ取組を推進していく一方で、未来に向け、特に重点的・施策横断的に取り組む必要のある課題に対応するため、施策単位での取組を連携させながら事業実施の効果を高め、課題を解決し、基本目標の達成や将来像の実現を目指していく必要があります。

このことから、本市の課題等を踏まえた、重点的・施策横断的な取組を「戦略プロジェクト」として展開します。

取組期間は、おおむね3年を目途に重点を置いた取組を進めます。

*¹ 基本目標

総合計画の基本構想に掲げている「目指す将来像」の実現のため、まちづくりの理念や方向性を表したもの

*² 施策

目指す将来像の実現に向けて取り組む課題を明確にするために、4つの基本目標の下に位置付けたもの。施策毎に目標値を設定するなどして達成度の評価を行います。

2 令和2年度戦略プロジェクト

重点1 未来のもりおかを創る若者・しごと応援プロジェクト

ものづくり人材や意欲ある農林業の担い手の育成、支援など、若者を中心とした盛岡で働く人を育てるとともに、戦略的な企業誘致や新産業等用地の整備、地元企業への支援などを通じて、盛岡の働く場を創出します。

また、地元企業や農林業などの、効率性や生産性、付加価値を高め、地場産業の基盤の安定化と魅力向上により、地域経済の活性化と人口流出の抑制を図り、持続可能な活力あふれるまちづくりを推進します。

重点2 みんなが支える子ども・子育て安心プロジェクト

若い世代や子育て世代が、希望を持って子どもを産み育てることができるよう、さまざまな保育ニーズに柔軟に対応するための支援を行うなど、子育て環境を充実します。

また、子育ての相談や子どもの健全な成長を支援する体制の充実を図り、盛岡に住み続けたいと思える、安心して子育てのできるまちを実現します。

重点3 2020あつまる・つながるまちプロジェクト

本市を訪れる旅行客が満足し、選ばれる観光地域となるため、歴史や自然、文化などの恵まれた観光資源を生かし、ブラッシュアップするとともに、国内外からの観光客受入態勢の整備を進めるほか、様々な媒体を通じ、本市の魅力を積極的にプロモーションします。

また、東京2020オリンピック・パラリンピックの機運を高め、ホストタウン事業などに取り組むとともに、MICE（マイス）の誘致や盛岡ファンづくりを推進するなど、交流人口を増やし、魅力があふれるまちづくりを推進します。

Ⅱ 戦略プロジェクト評価について

1 戦略プロジェクト評価は何のために行うのか

戦略プロジェクト評価は、各戦略プロジェクトが目的や目標に対し、どの程度達成されたか等の視点により評価するとともに、ロジックモデルシートを活用した戦略プロジェクトと構成事業の関係性や成果の顕在化についても評価しています。

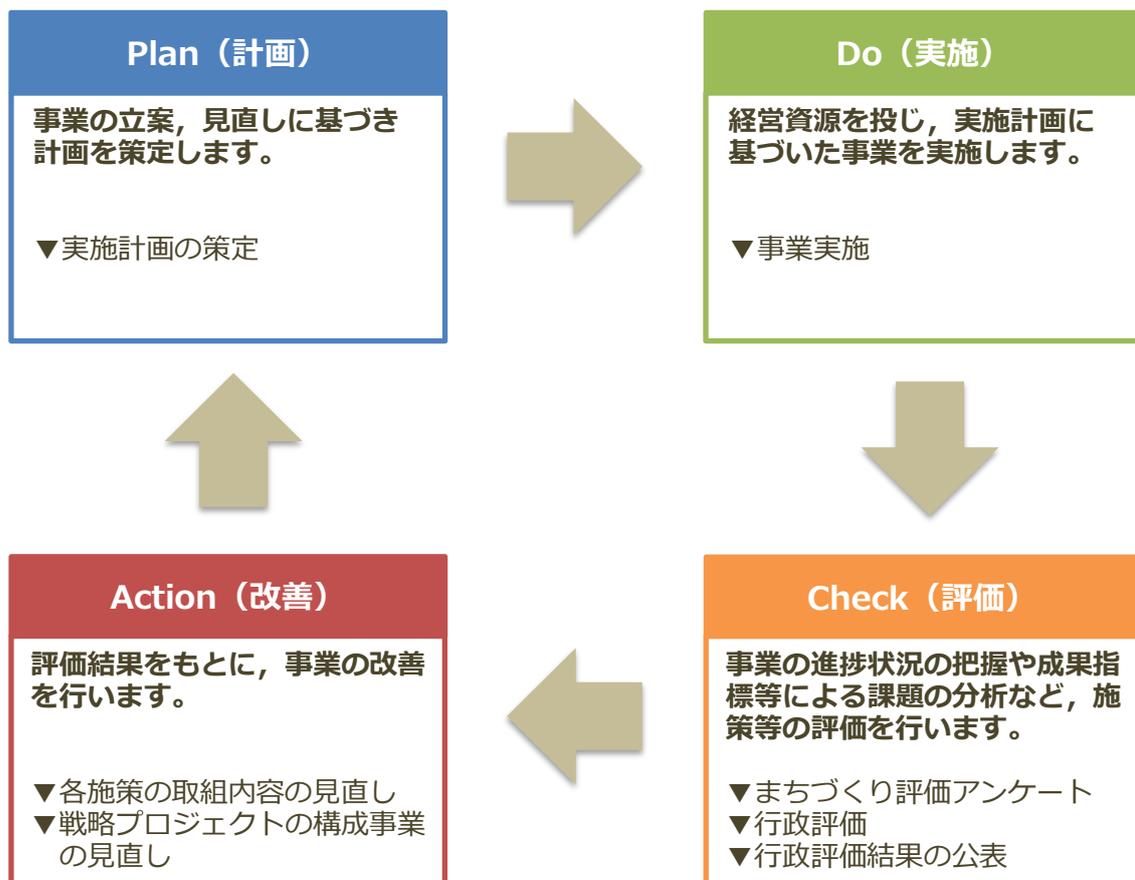
なお、評価シートでは、戦略プロジェクトの目標値に対する実績値の推移をグラフ化して表すとともに、実績の評価を踏まえた今後の展開についても示しています。

戦略プロジェクトは、設定した取組期間内において目標を達成することが求められていることから、前年度の実績を踏まえながら当該年度の評価時点における進捗状況評価（事中評価）を実施することで、戦略プロジェクトの着実な推進を図ります。

2 どのような仕組みか

計画（PLAN）→実施（DO）→評価（CHECK）→改善（ACTION）の循環（マネジメントサイクル）を確立し，市の行政活動について絶えず振り返りを行うことにより，次年度以降の企画の立案や予算編成に反映させていく仕組みです。

○総合計画の進行管理



3 評価結果を何に反映させるのか

戦略プロジェクト評価の評価結果は，今後の戦略プロジェクトの推進や構成事業の見直しに活用するとともに，戦略プロジェクトの期待する効果の実現に向けて特に高い効果が得られる事業に対し，重点的に予算を配分するなど，予算編成に活用することとしています。

(余白)

戦略プロジェクト評価シートの見方

【戦略プロジェクト評価(令和2年度)】

戦略プロジェクトの概要

戦略プロジェクト名	未来のもりおかを創る若者	戦略プロジェクトに取り組む背景	戦略プロジェクトの取組の内容
期待する効果	やりがいのある仕事を創り、若者が引き付けられ暮らし続ける、活力のあるまちになる	若者がどれだけ盛岡に残り、定住してもらえるのかという課題があり、この課題解決に向けて「安定した雇用形態」、「所得の向上」といった雇用の質を重視した取組の経営課題に直面し、課題の解決に向けての強化などを促進する	ものづくり人材や意欲ある農林業の担い手の育成、支援など、若者を中心とした盛岡で働く人を育てるとともに、戦略的な企業誘致や新産業等用地の整備、地元企業への支援などを通じて、盛岡の働く場を創出する。 また、地元企業や農林業などの、効率性や生産性、付加価値を高め、地場産業の基盤の安定化と魅力向上により、地域経済の活性化と人口流出の抑制を図り、持続可能な活力あふれるまちづくりを推進する。
重点取組期間	令和2～令和4年度	戦略プロジェクトの中心事業を所管する部を「主管部」、 主管部の部長を、「戦略プロジェクト統括マネージャー」としています。	意図(対象をどのようにしたいのか)
主管部名	商工労働部・農林部	対象(誰(何)を対象として行うのか)	盛岡でやりがいのある仕事に就き、暮らし続ける 基盤を安定化させ、魅力を向上させる
戦略プロジェクト統括マネージャー	小笠原 康則 商工労働部長・長澤 秀則 農林部長	戦略プロジェクトの進捗状況を客観的な数値で表した指標を設定し、 目標達成度を評価する判断材料としています。	

目標指標の状況・評価(令和2年7月時点)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単位	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析	「指標の目指す方向」に向けた問題点	問題点の要因分析
指標① 盛岡公共職業安定所管内の高校生県内就職率	%	<p>・企業に対し、求人票の早期提出を各機関が呼びかけるなどして、県内の求人情報を高校生が早期に知ることができるよう取り組んだ。</p>	<p>・ハローワークや県、市がそれぞれ地元企業を学生が知るための取り組みを行った。 ・毎年行っている高校生を対象としたインターンシップ事業が地元企業を知るきっかけとなったと考えられる。 ・高校生の就職面談会を開催するなどして、就職機会の提供を図った。</p>	<p>・昨年度とほぼ横ばいの数値となっている。</p>	<p>・大都市圏の企業と比較した場合に待遇差があることから、一定数県外での就職を選択する。 ・企業の知名度が大都市圏の企業と比べて低い。</p>
当初値(H29)	63.8	R4目標値	70.0	目指す方向	▲
指標② 県内大学生の就職率	%	<p>・昨年度に比べて県内就職の内定率が増え、県外企業の高い採用意欲の中、就職支援を</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症拡大以前において、景気が好調な状態が続いていたことから、特に大都市圏において企業の採用意欲が高い状態にあった。 ・県内企業と大都市圏の企業との待遇格差が大きい。 ・県内企業の知名度が、大都市圏の企業と比べて低い。</p>	<p>・大学生の県外志向が高い状態となっている。</p>	
当初値(H29)	43.6	R4目標値	45.0	目指す方向	▲

今後の展開(評価時点～令和3年度)

評価を踏まえた今後の取組
<p>☆1 高校生インターンシップの参加企業・参加高校を増やし、多くの学生が地元企業を知るきっかけとする。</p> <p>☆2 地元で働き・生活することの魅力伝えるための方法をさらに検討する。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により、今後、求人等への影響が生じる可能性があり、動向を注視し、必要に応じて適切な施策を講じていく。</p>
<p>☆1 県外大企業への就職支援を</p> <p>☆2 地元企業の働く場としての魅力向上を図る。</p> <p>☆3 大都市圏との待遇格差の解消に資するため地域経済を活性化させ、企業収益向上を目指すための取組を行う。</p> <p>☆4 若者の起業を支援するための取組を行う。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により、今後、求人等への影響が生じる可能性があり、動向を注視し、必要に応じて適切な施策を講じていく。</p>

指標の実績値の状況を踏まえ、指標の目指す方向に向けて特に寄与している点・問題点を記載し、その要因を分析しています。

左欄の要因分析を基に、今後必要となる展開を記載しています。

「▲」は実績値を上げていくことを、「▼」は実績値を下げっていくことを、目標とするものです。

戦略プロジェクト ロジックモデルシートの見方

- ロジックモデルとは、ある施策がその目的を達成するに至るまでの論理的な因果関係を明示したものです。
- 戦略プロジェクトにおけるロジックモデルシートは、各事業がどういった論理（ロジック）で戦略プロジェクトの期待する効果に至るのか、その過程を、数段階（活動、結果、一次成果、二次成果、三次成果）に分けて整理しています。つまり、活動から右へ順に、時間の経過にともなう成果の流れを表しています。
- ロジックモデルシートを作成するにあたっては、経験と事業実績に基づいて、「こうなることによってこうなる、その結果こうなる・・・」という論理の流れを考えます。このような論理的な根拠を持ったより良い仮説を立てることが、より有効性の高い事業をつくりだすことにつながると考えています。また、毎年このロジックモデルを検証し、見直すことによって、戦略プロジェクトの期待する効果の達成を目指します。

ロジックモデルシート(令和2年度評価/令和2年7月作成)

[重点2]みんなが支える子ども・子育て安心プロジェクト

